

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫	広島大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2 HRMa-081401-2	6	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地で調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は久留米市とその周辺で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：福岡県久留米市中心市街地における駐車場の分布とその特性
2. 調査の内容/概要：都市中心部における駐車場の立地動向から、都市空間がモータリゼーションに対応してどのように変化したのかを明らかにする。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：質的調査と量的調査が半々であった。まず、駐車場の動向を知るため久留米市役所と久留米駐車協同組合を訪問した。つづいて都市中心部の駐車場の調査を実施した。
4. 主な調査項目：組合では、組合の概要、駐車場立地の動向についてヒアリングを実施した。市役所では関連する統計資料を入手した。また、駐車場については、その所在をあらかじめ住宅地図で確認し、現地で収容台数や料金、時間貸しか月極めかなどの調査を行った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集、そして観察による。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2008.6.23から27にかけて実施した。調査地は久留米市であり、学生1名が実施した。
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：本調査では組合へのヒアリングが質的調査といえる。また、駐車場は884か所あり、そのタイプ分けを市役所の資料と現地での調査で実施した。これは量的調査である。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：学生が調査により収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせて分析・解釈する方法をとった。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：時間貸し、月極ともに駐車場によって収容台数には差があるが、とくに月極の場合収容台数が少ないものが多い。時間貸しにおける駐車料金は繁華街では路線価によって料金に変化する傾向がみられた。近年では駐車場の増加率は低下しており、地区によっては駐車場数の減少もみられた。
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)に、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名	
連絡責任者氏名		科目設置機関名
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫	広島大学文学部
授業科目名	科目認定番号	受講者数
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2 HRMa-081401-2	6

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地で調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は久留米市とその周辺で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：大川家具産地の再編と再生への取り組み
2. 調査の内容／概要：大川家具産地の生産・流通構造を分析した上で、現在抱える問題点とその現状を明らかにする。
3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：質的調査が主体であった。まず、産地の全体像を知るため協同組合大川家具工業会を訪問し、つづいて事前に組合を通じて紹介を得ていた企業の訪問調査を実施した。
4. 主な調査項目：組合からは、組合の概要、産地の動向、近年の取り組み等についてヒアリングを実施した。また、大川市役所に対してインテリア産業リバイバルプランの内容を聞き取った。企業からは概要と、生産・流通の仕組みについて説明を受けた。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集、そして観察による。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2008.6.23から27にかけて実施した。調査地は大川市であり、学生1名が実施した。
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：質的調査を主としたので、データ量は多くはない。しかし、直接の主体からのヒアリングを主体としたので、質的には良質のデータが得られた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：学生がヒアリングにより収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせて分析・解釈する方法をとった。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：産地内の社会的分業関係が明らかにされ、集積を形成する要因が提示できた。また、近年の海外生産の進展により産地内の生産・流通構造に変化があることも示された。
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報DB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫	広島大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2 HRMa-081401-2	6	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地で調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は久留米市とその周辺で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まざまざの成果を得ることができたと評価している。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：佐賀県鳥栖市における営業倉庫の立地と特性

2. 調査の内容/概要：大都市近郊の交通の要衝に集まる営業倉庫について、その立地メカニズムと機能について明らかにする。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：質的調査が主体であった。調査対象地域には営業倉庫業者は32社あり、事前に依頼状を送付して協力が得られた8社に対して訪問調査を実施した。

4. 主な調査項目：進出年、従業者数、本社所在地、倉庫面積、主な保管品目、保管形態、荷主の特徴、入庫先、出庫先などを調査した。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集、そして観察による。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2008.6.23から27にかけて実施した。調査地は鳥栖市であり、学生1名が実施した。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：質的調査を主としたが、8社から回答を得ることができた。質的にも良質のデータが得られた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：学生がヒアリングにより収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせる分析・解釈する方法をとった。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：鳥栖市には九州を市場とする企業の倉庫 (消費地保管) と、九州を生産地とするJA等の倉庫 (生産地保管) があり、それらが九州全域へのアクセシビリティの高さから当地に集積していることが明らかになった。

10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
(ふりがな) ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) ともざわ かずお 友澤 和夫		広島大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2 HRMa-081401-2	6	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地で調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は久留米市とその周辺で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ/領域：佐賀県における海苔生産の現状と課題
2. 調査の内容/概要：佐賀県の有明海域における海苔生産の発展と、生産・流通の現状を把握する。
3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：質的調査が主体であった。まず、産地の全体像を知るため有明海漁業協同組合を訪問し、つづいて事前に組合を通じて紹介を得ていた漁家5世帯の訪問調査を実施した。
4. 主な調査項目：組合には、組合の概要、産地の動向、近年の取り組み等についてヒアリングを実施するとともに、関連する統計資料を入手した。また、漁家に対しては海苔経営の実態について調査を行った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集、そして観察による。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2008.6.23から27にかけて実施した。調査地は佐賀県川副町であり、学生1名が実施した。
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：質的調査を主としたが、5世帯の漁家から回答を得ることができた。質的にも良質のデータが得られた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：学生がヒアリングにより収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせる分析・解釈する方法をとった。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：海苔の生産から流通までのシステムを明らかにできた。特に当地では集団管理方式や協業化によって安定した生産体制を確立していると判断された。
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
(ふりがな) ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) ともざわ かずお 友澤 和夫		広島大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2 HRMa-081401-2	6	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地で調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は久留米市とその周辺で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：福岡県八女市の茶業について-茶葉生産から荒茶加工まで-

2. 調査の内容／概要：高級茶葉の産地として知られる八女産地の現状と市場戦略を明らかにする。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：質的調査が主体であった。まず、産地の全体像を知るため八女市役所とJAふくおか八女を訪問した。つづいて事前に組合を通じて紹介を得ていた製茶工場と農家2世帯の訪問調査を実施した。

4. 主な調査項目：組合では、組合の概要、産地の動向、近年の取り組み等についてヒアリングを実施するとともに、関連する統計資料を入手した。また、製茶工場ではその経営の実際を、農家に対しては茶業経営の実態について調査を行った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集、そして観察による。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2008.6.23から27にかけて実施した。調査地は八女市であり、学生1名が実施した。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：質的調査を主としたが、製茶工場と2世帯の農家から回答を得ることができた。質的にも良質のデータが得られた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：学生がヒアリングにより収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせる分析・解釈する方法をとった。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：八女茶の生産・流通構造が明らかとなった。とくに、茶の取引においてJAふくおか八女にある茶取引センターが、茶農家と茶商を媒介する重要な役割を演じていることが分かった。

10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を「*/」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
(ふりがな) ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) ともざわ かずお 友澤 和夫		広島大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2 HRMa-081401-2	6	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地で調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は久留米市とその周辺で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：福岡県久留米市におけるイチゴの生産
2. 調査の内容／概要：福岡県の高級イチゴとして知られる「あまおう」のブランド戦略と生産の実態を明らかにする。
3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：質的調査が主体であった。まず、産地の全体像を知るため久留米市役所とJAくるめを訪問した。つづいて事前に組合を通じて紹介を得ていた農家3世帯の訪問調査を実施した。
4. 主な調査項目：組合では、組合の概要、産地の動向、近年の取り組み等についてヒアリングを実施するとともに、関連する統計資料を入手した。また、農家に対してはイチゴ経営の実態について調査を行った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集、そして観察による。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2008.6.23から27にかけて実施した。調査地は久留米市であり、学生1名が実施した。
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：質的調査を主としたが、3世帯の農家から回答を得ることができた。質的にも良質のデータが得られた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：学生がヒアリングにより収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせる方法をとった。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：イチゴ栽培は労働力の投入量が大きいため専業農家主体となっており、またそれは全国的なブランドの確立により支えられていることが明らかになった。近年では海外でも知名度が向上している反面、後継者不足が顕在化していることが産地としての課題であった。
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)で、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。